

(様式 6 - 1)

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	指宿スカイライン沿道の永続的な景観維持へ向けた新技術の研究
助成事業者	一般社団法人 鹿児島県造園建設業協会
代表者	会長 井上 恒治

(目的)

開業後 40 年が過ぎ、沿道樹木の繁茂で損なわれていた指宿スカイラインの眺望を確保するために、繁茂しすぎた沿道樹木の伐採事業が行われ、伐採された区域では良好な沿道景観が回復されている。

一方、伐採跡地をそのまま放置することで、伐採された樹木の切り株が萌芽し将来再び眺望が損なわれることが懸念されている。

本研究では、少ない費用で永続的な眺望及び景観の確保が可能となるような樹林育成管理技術を案出し、指宿スカイラインの魅力向上に寄与することを目的とする。

(概要)

先ず、伐採跡地が繁茂し再び眺望を阻害する要因としては、切り株からの萌芽更新及び埋土種子からの稚樹更新による樹木の繁茂が考えられ、文献調査をもとに抑制策を検討した。

文献調査の結果、河川法改正によって『河川環境の整備と保全』が目的の一つに明記された河川管理においても、洪水の流下に支障となる流下断面内の樹木の管理を行う上で同様の課題を抱えており、(独)土木研究所において以下の萌芽抑制試行結果が報告されている。

- ① 萌芽枝の一度の伐採では再び萌芽するが、8月と12月に2回萌芽枝を伐採すると2年目には萌芽しない。
- ② 除草剤の利用方法としては、伐採後当年に発生する高さ1m以内の萌芽枝への茎葉散布、及び伐採直後の切り株の切断面に塗布する方法があり、ともに根茎まで枯らすことが確認されている。

次に、現地踏査の結果では、沿道法面にはヤマザクラ・オンツツジ・ハクサンボクなど山野を彩る有用な植物が多く自生しており切り株からの萌芽も観られた。

以上の結果から、将来眺望の阻害要因となる萌芽株は确实性及び経済性並びにこれまでの施工実績から除草剤塗布で根絶する手法を選択した。また、沿道の景観向上に繋がる有用な植物は、補植に加え、芽カキ等の萌芽更新作業による萌芽枝の育成を図ることで、永続的な眺望及び景観の確保が可能となると考える。

本研究では、これらの樹林育成管理技術をもとにケーススタディを行い、育成管理設計書(標準施工断面図・平面図・数量総括表・工事費内訳書)を作成した。

一方、今後稚樹更新により景観阻害要因となる樹木の成長が予測され、コスト縮減の観点からも10年後を目途に、早めの伐採及び樹林育成管理の実施が望まれる。